

2/10
福

福島2号 格納容器内で最高線量 推定650シット 堆積物調査に支障

東京電力は9日、福島第1原発2号機の原子炉格納容器内に投入した自走式の堆積物除去ロボットで撮影した画像を分析した結果、内部の空間放射線量が毎時650シットと推定されたと発表した。前回調査の同530シットを上回る過去最高値で、数十秒浴びれば人が死亡するレベル。ロボットの走行ルート上には、堆積物で走行できない箇所も見つかった。

堆積物は、圧力容器真下のスペースにつながる機器交換用レール（長さ約7メートル）の一部に付着。圧力容器直下の作業用足場には、溶けた核燃料（デブリ）の可能性がある堆積物があり、月内にサンリ型の自走式調査ロボットを投入して確認を目指していたが、調査範囲などが大きく制限される可能性が出てきた。

堆積物の除去作業は9日午前に開始し、約2時間後、ロボットに搭載したカメラの映像が暗くなる不具合が発生して中断。東電は不具合の理由について「放射線の影響が大きい」と説明した。カメラは累積千シットまでの放射線に耐えられる設計。
堆積物は厚さが最大2センチ程度で、塗料やケーブルのカバーなどが溶けたものとみられる。